

2022年10-12月 | ぼんぼん時計 NO.73



**JSPS BONN
OFFICE**

NEWSLETTER

CONTENTS

センター活動報告.....1

ボン大学 Japan Tagに参加1

2022年度海外特別研究員オリエンテーション
兼キャリアフォーラムを開催2

AvH Humboldt-Kolloquiumに出席.....3

同窓会イベント「会員による会員の招待
(MIMe)」を開催.....3

第8回ジュニア・フォーラムを開催.....4

フェローとのオンライン交流会開催.....5

JANETフォーラム2022に出席.....5

研究者インタビュー.....6

センター長コラム.....8

今後のイベント.....9

センターからのお知らせ.....10

デュッセルドルフ旧市街のクリスマスツリー

11月下旬からクリスマスまでの時期は、ドイツ全土でクリスマス・マーケットが開かれ、キラキラとしたイルミネーションは、暗く寒いドイツの冬を温かく照らします。ボン近郊デュッセルドルフのアルト・シュタット（旧市街）の市庁舎前に飾られたクリスマスツリーは見上げる程大きく、ドイツの冬には珍しい青空に映えていました。（編集担当：田村国際協力員）



センター活動報告

26
Oct

ボン大学 Japan Tag (Japan Day)に参加

日時：2022年10月26日（水）

場所：ボン大学（Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität Bonn）

出席者：須藤副センター長、Schulze現地職員、河合国際協力員、田村国際協力員

ボン大学のInternational Daysの一環として、8か国の戦略的パートナーのうち日本に焦点を当てたフェア、Japan Tag (Japan Day) が開催されました。日本語入門クラスやマンガ・ワークショップなど多くの催しのうち、当センターは日本留学情報を提供するインフォメーション・イベントに参加しました。

当センターの他、在デュッセルドルフ日本国総領事館やDAAD（ドイツ学術交流会）、ケルン日本文化会館、ボン独日協会がインフォメーション・ブースを設置し、会場は日本文化や日本留学に関心を持つ学生等にぎわいました。当センターのブースでは、日本留学に活用できるフェローシップ等について来場者に紹介したほか、設置希望のあったJANETメンバー校の資料を配布し、情報提供を行いました。

▼文化体験ブースで書道を体験する学生



▲当センターのインフォメーション・ブース

また、ブースでの情報提供と並行して、メイン・セッションとして日本留学にかかる各種講演が行われました。ボン大学国際部から日本の協定校との学術交流や交換留学制度の紹介があったのち、当センターから、田村国際協力員が日本の高等教育制度及び留学の基本情報について、須藤副センター長がJSPS事業についてのプレゼンテーションを行いました。参加した多くの学生や研究者は、メモや写真をとるなど熱心に聞き入る様子が見られました。コロナ禍もあり、ボン大学での留学フェアへの参加は数年ぶりとなりましたが、日本留学に関心を持つ学生や研究者と直接交流することができ、当センターにとっても大変有意義なイベントとなりました。今後もこういったイベントを通して日独交流の動機付けの一助となれば幸いです。

2022年度海外特別研究員オリエンテーション 兼キャリアフォーラム開催

10
Nov

日時：2022年11月10日（木）

場所：Gustav-Stresemann-Institut（ボン）及びオンライン

令和4年度採用海外特別研究員を対象にしたオリエンテーション兼キャリアフォーラムを開催しました。本イベントは、渡独して間もない海外特別研究員が研究滞在を円滑かつ効果的に進められるよう、過年度からドイツに滞在している海外特別研究員や在独日本人研究者とのネットワーク構築の機会を提供することを目的としており、平成28年度から継続して実施しています。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの対面開催となった今回は、対象者を海外特別研究員に限らず、在独もしくはドイツ語

圏での研究活動に興味を持つ若手研究者等に広く拡大し、オンラインでも配信を行いました。当日は現地参加17名（令和2年度及び3年度採用海外特別研究員含む）オンライン33名が参加しました。

開催にあたり、はじめに林センター長による歓迎の挨拶があり、続いて現地参加者全員による自己紹介及び研究内容の紹介が行われました。次に、ミュンヘン大学・グループリーダーの川上直人先生より、ドイツにおける研究環境やキャリア形成、若手研究者に求められる素養などについて、ご自身のご経験に基づいて講演が行われました。続いて、ミュンヘン工科大学・教授の井上茂義先生より、ドイツの多様化するキャリアパスやグラント及びポジション獲得について質疑応答を交えながらご講演いただきました。

▼全員で記念撮影



▼講演者の川上先生（左）、井上先生（右）



講演終了後には参加者から多くの質問が上がり、ドイツの研究環境及び今後のキャリア形成について活発な意見が交わされました。講演間のコーヒードリンクでは、参加者同士での交流も積極的に行われていました。イベント後半には、田村国際協力員からJSPS国際事業や日本人研究者ネットワークの説明があり、最後にドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会の理事会委員の持丸氏から、日独学術交流支援の取組について紹介がありました。

専門分野や所属機関の異なる若手研究者同士が交流を持つ機会は限られています。今回のようなイベントにより共通の興味・課題を抱える若手研究者同士が知り合い、今後のキャリア形成に関する情報交換の場を持つことで、ドイツ語圏での研究滞在がより実り多いものとなることが期待されます。



▲講演に聞き入る参加者

日時：2022年11月17日（木）-18日（金）

場所：オンライン 参加者：林センター長

11月17日と18日に、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団（AvH）が主催するコロキウム「“Top Global Research” and the Humboldt Network: New Frontiers of German-Japanese Scientific Cooperation」がオンラインで開催されました。AvHは同窓生を対象として、海外で毎年2回フンボルト・コロキウムを開催しています。日本でのコロキウムは

コロナ禍のために延期されてきましたが、ついに今年度、オンラインにて開催されました。初日にはパーペ会長の歓迎のあいさつ等につき、ミュンヘン工科大学のマルコ・カカモ教授と東京大学の石原あえか教授の基調講演がありました。午前のまとめのセッションでは、林センター長がインタビューを受け、日本学術振興会とAvHの50年にわたる関係などについて紹介しました。また、これに先立って16日には、日本の若手研究者にフンボルト財団の紹介を行うサテライトイベントも開催されました。

同窓会イベント「会員による 会員の招待（MIMe）」を開催

18
19
Nov

日時：2022年11月18日（金）～19日（土）

場所：イルメナウ工科大学（Technische Universität Ilmenau）

当センターは例年、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）主催「会員による会員の招待」（MIMe: Mitglieder laden Mitglieder ein）の開催を支援しています。本イベントは、JSPS Club会員が他の会員を招待し、ネットワーク形成の促進を目的に開催されています。第16回目となる今年は、テューリンゲン州のイルメナウ工科大学を会場に、同大学のクリショク（Stefan Krischok）教授のホストのもと、3年ぶりに対面で行われました。

1日目は、クリショク教授、JSPS Clubのメンクハウス（Heinrich Menkhau）会長の挨拶により始まりしました。その後、イルメナウ工科大学のハナッペル（Thomas Hannappel）教

授及びクナウフ（Rainer Knauf）教授からそれぞれの研究内容である人工光合成及び人工知能について講演がありました。続いて、同大学の新旧キャンパスツアーが行われ、参加者は充実した研究設備を見学することができました。

2日目は、まず初めにエアフルトのCIS研究所/横浜国立大学のオルトレップ（Thomas Ortlepp）教授による量子工学の講演が行われました。その後、イルメナウ市街のシティーツアーが行われ、参加者は地形や産業についての解説を受けつつ、同地の鉱山復興に尽力したゲーテの足跡を辿りました。その後の昼食会では、会員同士による活発な交流がさらに進みました。

▼全員で記念撮影



第8回Junior Forumを開催

19
Nov

▼コーヒーブレイク



▲参加者同士の意見交換

参加者からは、次のステップに活用可能なプログラムに関する質問や事業に対するフィードバックなどが寄せられ、同席したJSPS東京本部担当課員も交えて充実した意見交換が行われました。最後に林センター長の挨拶により閉会しました。

今年度は例年5月に実施しているサマー・プログラムのオリエンテーションの開催を見送ったため、本イベントにおいてはじめて顔を合わせる参加者がほとんどでしたが、日本での経験談に話が弾み、コーヒーブレイクや夕食会の際にも盛んに交流が行われていました。日本での研究滞在という共通の経験を持った研究者同士が知り合い、研究活動や今後のキャリア形成について意見交換する良い機会となりました。

日時：2022年11月19日（土）

場所：イルメナウ工科大学 (Technische Universität Ilmenau)

ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（JSPS Club）との共催で、今回で第8回目となるJunior Forumをイルメナウで開催しました。本イベントでは、外国人研究者招へい事業により日本に研究滞在后、直近にドイツへ帰国した研究者を招待しており、今回は9名が参加しました。帰国直後の若手研究者が日本での研究滞在経験を発表するとともに、JSPS Club会員であるシニア研究者がキャリア形成について体験談を紹介することで、研究者同士の意見交換の機会を提供し、また若手研究者の同窓会加入の促進を目的としています。

はじめに、林センター長、JSPS Clubのメンクハウス会長からの挨拶があり、続いて、JSPS Clubのケルケベック（Katja Kölkebeck）氏から自身のキャリア形成についての体験談が紹介され、参加者はロールモデルとなるシニア研究者のキャリアパスについて積極的に質問する様子が見られました。次に、参加者から、サマー・プログラム及び外国人特別研究員（欧米短期あるいは一般）としての日本での研究滞在についてそれぞれ報告がありました。その後、JSPS Clubのメーヴァルト（Aiko Möhwald）氏による活動紹介、河合国際協力員によるJSPSの国際交流事業の紹介があり、全体の発表について質疑応答が行われました。



▲全員での記念撮影

24
25
Nov

JANETフォーラム2022に出席

日時：2022年11月24日（木）～25日（金）

場所：The Westin Grand Berlin（ベルリン）及びオンライン

参加者：林センター長、河合国際協力員、田村国際協力員

千葉大学とシャリテ・ベルリン医科大学が中心となり、JANETフォーラム2022がベルリンにて開催されました（1日目はハイブリッド形式、2日目はオンライン形式での開催）。

JANET（Japan Academic Network in Europe：在欧日本学術拠点ネットワーク）は、主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術関連機関による日欧の学術情報交換を目的とした組織です。今回のフォーラムは“Universities in a Post COVID-19 World: Challenges and Opportunities”がテーマとして設定され、日欧それぞれの関係者が参加しました。

JANET FORUM 2022 PROGRAMME

Universities in a Post COVID-19 World: Challenges and Opportunities



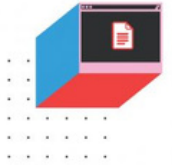
Date: Thursday, 24 November, 2022 – Friday, 25 November, 2022

Host: Chiba University

In-Person Venue: The Westin Grand, Berlin
(Address: Friedrichstraße 158-164, Berlin, Germany, 10117)

Virtual Venue: Day 1: Zoom webinar – Day 2: Zoom meeting

Language: Day 1: Japanese-English (Simultaneous Interpretation will be provided) – Day 2: English



フォーラム初日には、中山俊憲千葉大学長、シャリテ・ベルリン医科大学のAxel Radlach Pries学長、柳秀直在ドイツ日本国大使館特命全権大使の挨拶を皮切りに、パンデミック下の日欧の大学での対応やバーチャルでの国際交流について、トークセッションが行われました。また、翌日はバーチャル形式で各大学との交流会が実施され、最後は本センターの林センター長による閉会の挨拶によって幕を閉じました。



フェローとのオンライン交流会開催

13
Dec

日時：2022年12月13日（火）

場所：オンライン

サマー・プログラムや外国人特別研究員等、JSPSの国際事業により日本滞在中（今後滞在予定または滞在終了した者も含む）のドイツ語圏フェローを対象に、相互交流のためのオンライン交流会を開催しました。

林センター長のファシリテートによる参加者の自己紹介ののち、ドイツ語圏日本学術振興会同窓会（JSPS Club）のメンクハウス会長から同窓会およびその活動内容に関してプレゼンテーションが行われました。特に、同窓会員のサポートを仰ぐことができるJSPS Clubのメンター制度など、渡日中のフェローに有益な情報が提供されました。

また、日本での生活及び研究活動について、滞在中または今後滞在予定のフェローに対し、プログラムを終えドイツに帰国した先輩フェローからのアドバイスも多く聞かれました。同時にフェロー経験者に対しては同窓会加入や別事業での再渡日を促すことにもつながり、有意義なイベントとなりました。

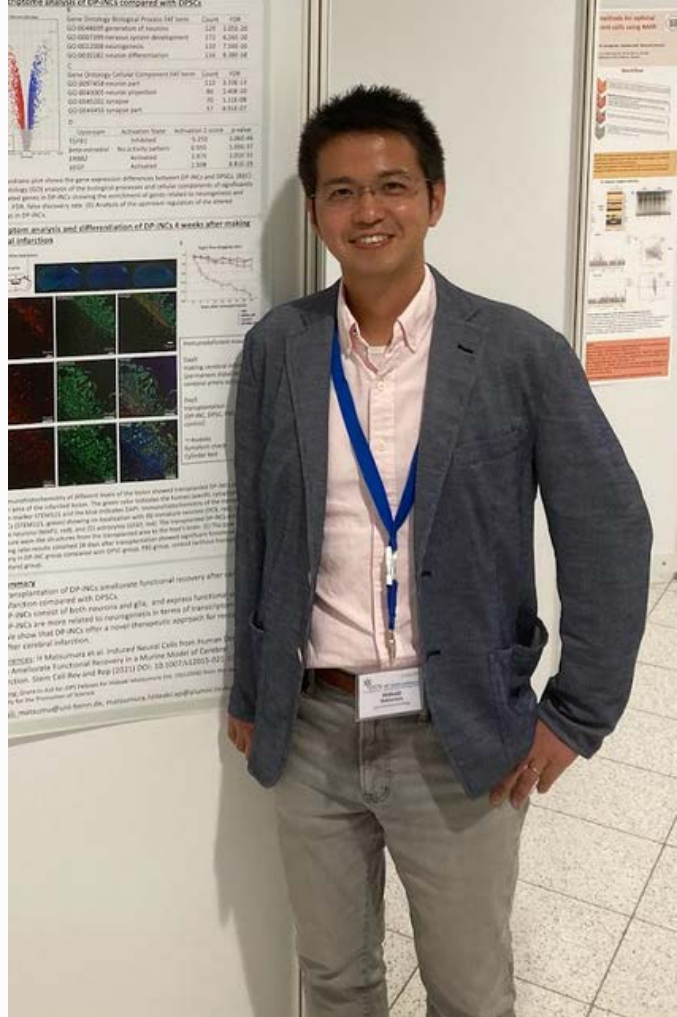
研究者インタビュー

Researchers Interview

松村 英明

海外特別研究員（ボン大学）

MATSUMURA Hideaki
Institute of Reconstructive
Neurobiology, University of Bonn,
Postdoc



▲GSCN Conference 2022 in Münsterでのポスター発表

Academic/Career Background

- 2011年 3月 筑波大学 医学専門学群 医学類卒業
- 2011年 4月 国立国際医療研究センター病院
- 2013年 4月 筑波大学 脳神経外科
- 2020年 4月 日本学術振興会特別研究員(DC)
- 2021年 3月 筑波大学 人間総合科学研究科
疾患制御医学専攻修了
- 2021年 4月 日本学術振興会海外特別研究員
ボン大学

“ 現在、ドイツでどのような研究をされていますか。

ヒトiPS細胞から分化誘導したニューロンを用いた、脳梗塞の再生医療に関する研究をしています。特に、興奮性および抑制性のニューロンがどのようにお互いに作用しあって、神経回路を形成していくかという事に興味を持っています。具体的には興奮性および抑制性ニューロンの培養皿上での特性や機能の解析と、脳梗塞モデルマウスへの移植実験を行っています。

海外特別研究員とは？

海外特別研究員制度は、国際的視野に富む有能な研究者を養成するため、優れた若手研究者を日本から海外に派遣し、特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援する制度です。全分野を対象とし、採用者には往復航空賃及び滞在費・研究活動費が支給されます（採用期間2年間）。平成28年からは、結婚・出産・育児・看護・介護のライフイベントによる研究中断等を経験した研究者向けの海外特別研究員RRAも新設されました。当センターでは、ドイツ語圏に派遣された海外特別研究員を対象に毎年オリエンテーションを開催しており（P.2参照）、在独日本人研究者とのネットワーク形成の支援を行っています。事業の詳細については本会Webサイトをご覧ください。

▼日本学術振興会Webサイト

<https://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>



“ 現在の研究分野に興味を持たれたきっかけや、海外特別研究員に申請された経緯を教えてください。

脳神経外科医として様々な種類の疾患の患者さんの治療を行ってきました。脳梗塞は発症してから数時間であれば、脳血管の閉塞部位を再開通させるカテーテル治療が行えますが、時間が経ってしまった場合はその治療は行えず、点滴や内服、リハビリが主な治療手段となります。カテーテル治療は有効ですが、時間的制約から、受けられない患者さんも多く、その様な状況においても行うことができる新たな治療手段として再生医療に興味を持ちました。筑波大学で博士課程を修了後、さらに研究を発展させたいと思い、海外特別研究員に申請しました。

“ 研究の場としてドイツおよび現在の所属機関を選ばれた理由を教えてください。

ドイツは自分の生まれ故郷であるのが理由の一つです。祖父および父も複数回ドイツに長期滞在をしたことがあり、いつか自分も戻って来たいと思っていました。留学先のボン大学Oliver Brüstle教授はドイツの幹細胞研究学会であるGerman Stem Cell Networkの創設者であり、様々な種類の神経系の細胞への厳密な分化誘導や、その細胞を用いた疾患モデル、マウスへの移植実験、細胞培養のオートメーションなどの研究を行っています。

“ ドイツおよび所属機関の研究環境にどのような印象をお持ちですか。

ラボのメンバーは半分程度がドイツ人です。朝早くから来て、常に集中して実験をし、比較的早く帰宅する人が多い点が特徴的です。オンオフがしっかりしており、教授も含め、皆1ヶ月程度夏休みをとります。研究環境としては、同じ階に2つの別のラボがあり、機器を共有している点が特徴的です。それぞれの機器ごとに担当のポストドクあるいは博士課程の学生が決められており、使い方のレクチャーから、トラブル時の対応、実験計画の相談など、気軽に助けあう環境があります。大学自体の共通機器室もありますが、同じフロアで様々な機器が使える点は効率的に研究を進める上で有用だと感じます。

“ ドイツでの生活は日本と比べていかがですか。

ボンは旧西ドイツの首都ですが、大都会ではなく、暮らしやすい街です。国連や様々な政府機関、学術機関などがあり、外国人に対して大変寛容な雰囲気があります。日本に比べて1年を通しての日照時間の変化が大きいです。その時期に合わせた生活を楽しんでいる印象です(春や夏はライン側沿いの散歩、冬はクリスマスマルクトなど)。

“ ドイツでの研究滞在に興味を持っている研究者にアドバイスやメッセージがありましたらお願いします。

海外での研究は、日本では体験しなかった困難を伴う事もありますが、自分を成長させ、視野を広げるためにも有用です。ドイツに来てから、窓口業務などで担当者によって言っている内容が変わる事や、メールでは返事がもらえない事などを多く経験しました。日本のサービス精神の高さを実感するとともに、不可解に感じられる点があれば何度も問い合わせる(電話が一番確実)、別の人に聞いてみるといった図太さが研究、生活していく上で大切だと思います。

2022年11月18日と19日には、同窓会の「会員による会員の招待イベント」が、ドイツ中部の小都市イルメナウで開催された。このイベントは、同窓会員の誰かがホストとなり、その人の所属する大学に会員が集まって、ホストに関連する分野の講演を聴き、研究施設を見学し、歴史的な場所を訪問するというものだ。

イルメナウ？ 聞いたことない都市だが…。それもそのはず、人口約4万人の小さな町だ。近くにはワイマールやイエナなどの有名な都市があるが、イルメナウはそこから50キロほど離れた山中にあった。他の都市に比べて標高500メートルと寒冷なので、ウィンタースポーツ選手の養成活動が盛んなようだ。私たちが訪れたときも、思わぬ寒波に見舞われて寒かった。

「ゲーテと大学の街」と称しているらしい。短い期間だが、ゲーテは若いころ公務員としてこの街に住んでいたとのこと。旧市街を歩くと、「ここにゲーテが住んでいました」とか「この家でゲーテは最後の誕生日を祝いました」などと書かれた看板が目に入る。



▲ゲーテが定宿とし82歳の最後の誕生日を過ごした宿（現在は廃業）に掲げられた看板

センター長コラム

Director's Column



▲かつてゲーテが公務員として執務室を持っていた建物は、現在は街の歴史やゲーテの足跡を辿る博物館になっている

「大学の街」の「大学」というのが、イルメナウ工科大学のことだ。たしかに駅の東西1.5キロにも渡る広大なキャンパスを擁している。学生数が5000人で教職員数が1500人というから、街の人口の16%ほどは大学関係者ということになる。1894年に創設された歴史ある工科大学だ。ロシアとの共同研究が盛んなのだが、ウクライナ戦争の勃発によって、ロシアとの共同教育事業の継続が困難な状況に陥っているらしい。しかしロシアからの留学生は、ほとんどがそのままイルメナウに残って研究を継続しているようだ。

イベントでは大都市を訪れることがほとんどなので、今回初めてこのようなドイツの小さな街を訪問することになった。心地よい街だった。

25^{Feb} 第1回ドイツ研究者ネットワーク交流会

2023年2月25日（土）14時

在ドイツ日本国大使館（ベルリン）

対 象： 在独日本人研究者（分野、職位の制限なし）

基調講演： 小松 英一郎 氏

（マックス・プランク宇宙物理学研究所所長）

内 容： 参加者自己紹介、在独研究者講演、パネル
ディスカッション、レセプション等（調整中）

▶在独研究者有志による交流会を開催します（協力：在ドイツ日本
国大使館、JSPSボン研究連絡センター）。詳細は下記Webサイト
をご覧ください。

<https://www.jsp-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/jr-net-event>

＼2月5日（日）まで／



参加登録はこちらから

12-13^{May} 第26回 日独学術シンポジウム

2023年5月12日（金）、13日（土）

Christian-Albrechts-Universität zu Kiel（キール）

▶例年、日独双方から第一線で活躍する研究者を講演者として招き開催しているシンポジウムです。
詳細は、決まり次第当センターWebサイトやTwitter等でお知らせします。

TBD オンライン事業説明会

日程調整中／オンライン

▶研究者の皆様向けに、キャリアステージやニーズごとに4つのテーマで本会の事業をご紹介する
オンライン説明会を計画中です。詳細は、決まり次第当センターWebサイトやTwitter等でお知らせ
します。

事業説明会のご依頼お待ちしております！

本会の各種事業について研究者や職員のみなさまに広くご活用いただきたく、当センターの
スタッフがご依頼のあった大学や研究所等にお伺いし事業のご紹介をする「事業説明会」を
随時開催しております。シンポジウムや勉強会など各機関主催イベントの一部としても実施
可能です。内容や対応言語（主に日本語及び英語）はご要望に合わせて調整可能ですので、
メールまたは電話等でどうぞお気軽にご相談ください。

センターからのお知らせ

Information

ドイツ学術ニュース

これまでドイツ学術ニュースをばんばん時計に掲載してきましたが、今年度から本紙面での掲載を休止し、ボンセンターWeb サイトのみで公開することといたしました。毎月 1 回のペースで更新予定ですので、ぜひ下記 Web サイトからご覧ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/research-in-germany>



在独日本人研究者登録のお願い

本センターでは、ドイツ語圏でご活躍の日本人常勤研究者（教授、准教授、研究所グループリーダー等）で、JSPS の事業等の情報配信を希望する方、在独日本人若手研究者の支援にご協力いただける方などのご登録をお待ちしております！

詳細は当センターWebサイトをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/in-germany>



お知らせメールの配信

ドイツ語圏で活躍中または渡航検討中の方向けのお知らせメール配信を始めました。イベントや公募情報等を不定期（月 1～2 回程度）配信しますので、ぜひご登録ください。

詳細は当センターWebサイトをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/info-mail>

＼イベントや各種公募情報などをお届けします／



FOLLOW

US ON TWITTER

@JSPS_BONN



JSPS BONN OFFICE

日本学術振興会ボン研究連絡センター

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, 53175 Bonn（事務所住所）

Postanschrift: 20 14 48, 53144 Bonn（郵便物用）

E-mail: bonn-info@overseas.jsps.go.jp

Tel: +49(0)228-375050

Fax: +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de